神奈川県立高等学校PTA連合会

平成29年度 健全育成分科会

活動報告

第1分科会

テーマ：防災対策・教育』

メンバー数：8名

【今季目標】

生徒たちに、防災や災害に対する意識を高めてもらいたい

【そのために・・】

どれだけ災害時の対応や防災に対しての知識があるのか把握するため、アンケートを実施

災害に対しての体験や見学など、行政や体験型施設などのイベントに参加

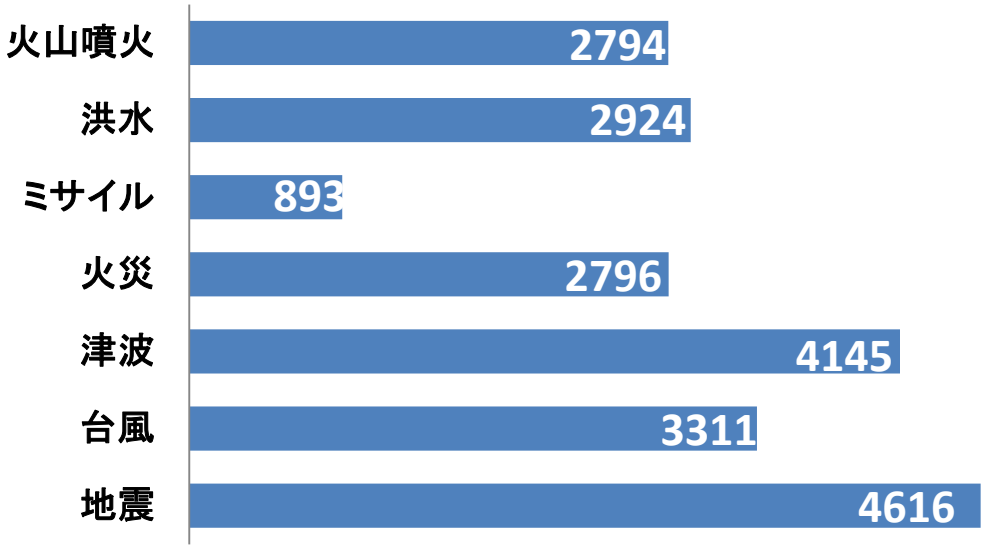
防災・災害についてのアンケート

アンケート対象：理事校（10校）

分科会員の高校（8校） 回答総数 ： 4,749枚

Q.1 「災害」と聞いて思いつくものを教えてください。（複数回答可）

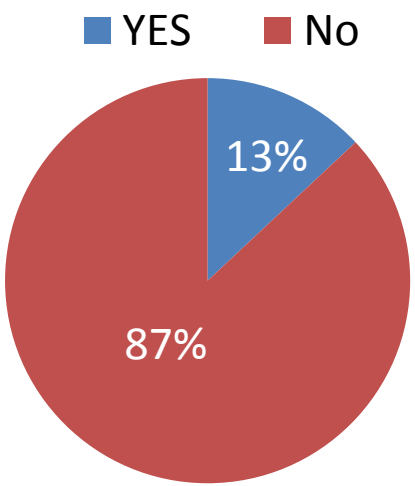
□地震 □台風 □津波
□火災 □ミサイル
□洪水 □火山噴火
□その他（ 別添①参照 ）



Q.2 就寝時、近くに「防災グッズ」を置いていますか？

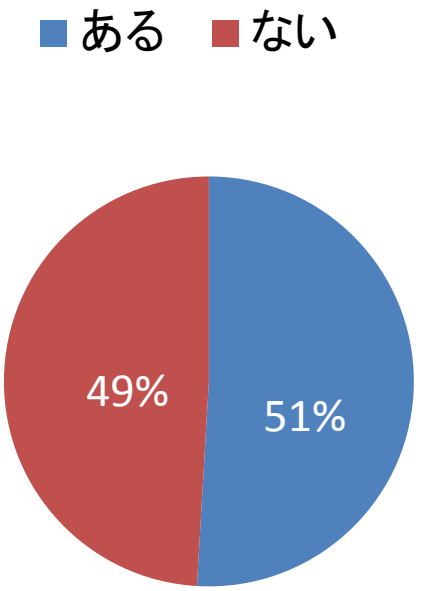
□YES 620
□NO 4,139

YESと答えた方は、何を置いているか具体的に教えてください。（ 別添②参照 ）



Q.3 災害時」家族との連絡手段・方法、
集合場所等について話し合ったこと
がありますか？

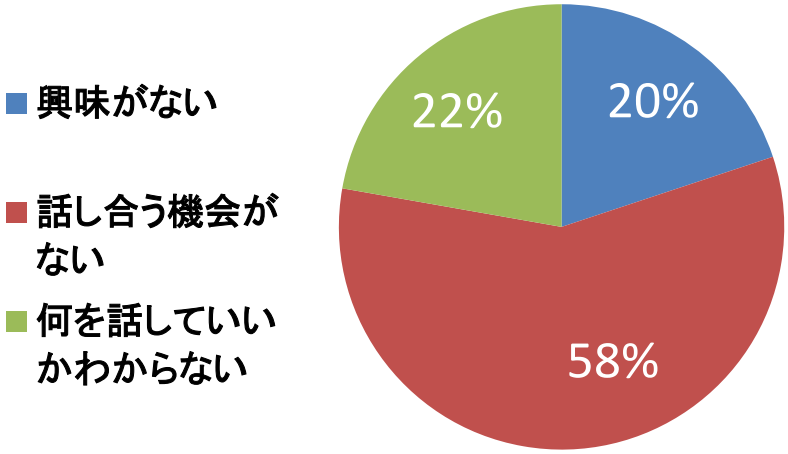
□ある　2,400　　□ない　2,312



あると答えた方は、どんな内容に
ついて話し合ったか、具体的に
教えてください。
（　別添③参照　）

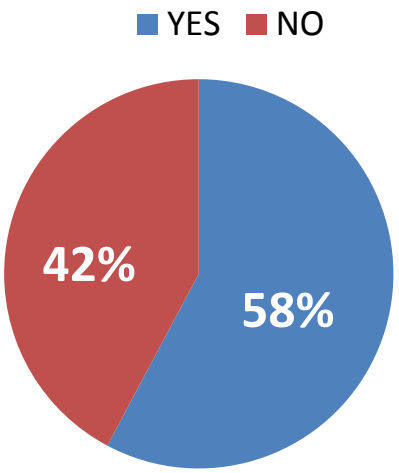
「Q.3」でないと答えた方は、その理由を教えてください。
（該当する項目に〇をつけてください。）

興味がない・・・・・・・・・・402
話し合う機会がない・・・・・1,169
何を話していいかわからない・・449



Q.4　家族の携帯電話番号を記憶していますか？

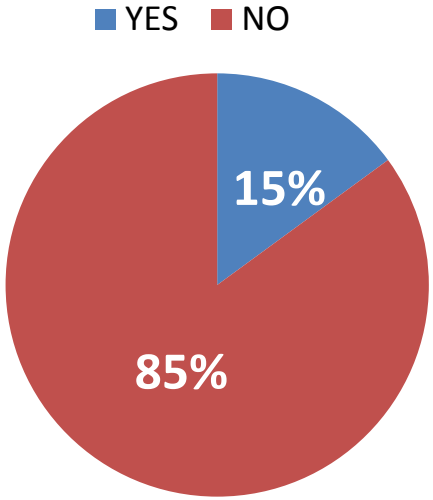
☐YES　　2,606
☐NO　　1,904



Q.5 「災害時」携帯やスマホ等が使えなかった場合の連絡方法を考えていますか？

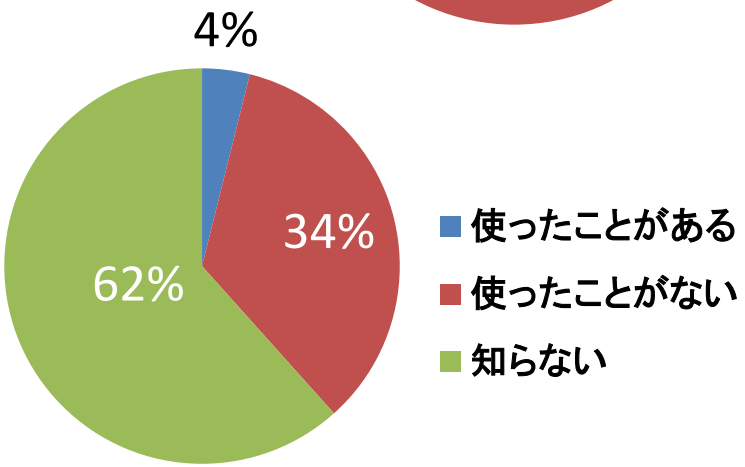
☐YES　622　　☐NO　3,540

YESと答えた方は、どんな方法か具体的に教えてください。（　別添④参照　）



Q.6　災害伝言ダイヤルを知っていますか？

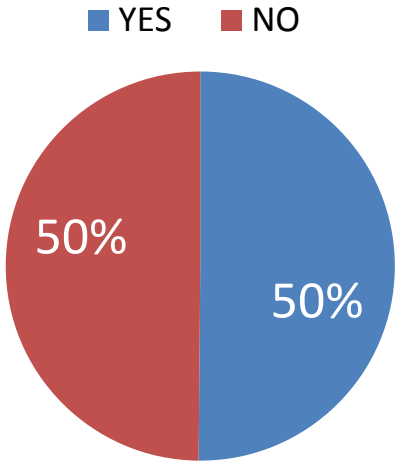
☐使ったことがある（練習利用を含む）　181
☐知っているが使ったことはない　1,605
☐知らない　2,868



Q.7　自宅・学校（登下校時含む）・その他、どこで被災しても避難する場所を知っていますか？

☐YES　2,421

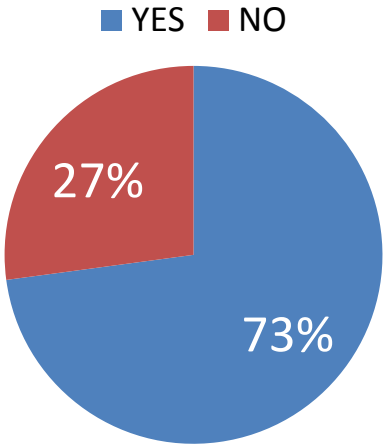
☐NO　2,408



Q.8　学校等自宅以外の場所で被災した場合
地域の方々と一緒に行動できると思いますか？

☐YES　3,429

☐NO　1,276



アンケートへのご協力ありがとうございました。

第2分科会

テーマ：自己肯定感の醸成

メンバー数：9名

目指す姿と今期のゴール（H29年度）

目指す姿

①自己肯定感の醸成とは何か定義し、その効用が明確になっている。

②そのうえで自己肯定感醸成プログラムを持ち、教育委員会や親を巻き込みながら高校生に直接的に働きかけている。

【今期のゴール】

①について見解を示す

活動内容

日付	内容	
8/20	第１回分科会	メンバー自己紹介、オリエンテーション
9/23	第２回分科会	神奈川県教育委員会高校教育課指導主事　蘇武様 自己肯定感の醸成に関する国・県の問題意識・取り組みについて
10/15	第３回分科会	エコー株式会社　佐藤様 自己肯定感醸成プログラムのデモンストレーション
11/26	第４回分科会	12月高P連県大会分科会の進め方検討
12/2	県大会	県大会にて自己肯定感の醸成をテーマにした分科会でエコー株式会社　佐藤様を講師として自己肯定感体感プログラムを実施。
1/6	第５回分科会	県大会振り返り 来期に向けたビジョン策定
2/12	第６回分科会	エコー株式会社　佐藤様 自己肯定感醸成プログラムの受講
3/24	第７回分科会	臨床心理学博士　中本様 高校生にとっての自己肯定感とは～理論的な見地から～
4/22	第８回分科会	日本セルフエスティーム普及協会　工藤様 高校生にとっての自己肯定感とは～実践現場の見地から～
5/13	第９回分科会	活動まとめ

今期の分科会を通して得た気づき

- 自己肯定は自己理解＆承認
- 子どもの自己肯定感を高めるには親の接し方をはじめとした家庭環境が大切。また、親自身が自己肯定感を高める必要あり。
- 他人を尊重し承認することが自己肯定感につながる
- 自己肯定感は自己実現のエンジン

自己肯定感の醸成とは

自分を客観的に理解し、ジャッジせずにあるがままの自分を認めること

自己肯定感が醸成されると・・・

★自分に対する客観的な理解ができ、自分の価値を自分で認めているので、

- **将来の方向性を自分で具体的に考えられる**
- **夢に向けて自然なモチベーションを生み出す力が働く**

★人と違っていていいと思えるし、同時に他人も違っていて当たり前と思えるので、

- **人と比べて落ち込まなくなる**
- **他人を認められる**
- **共働補完関係が築ける**
- **優しくなれる**

★起こった出来事と自分の価値を切り離して考えられるので、

- **挫折を乗り越えられる**
- **前向きになれる**
- **人生が楽しめる**
- **感情をコントロールできる**

目指す姿と今期のゴール（H30年度）

目指す姿

①自己肯定感の醸成とは何か定義し、その効用が明確になっている。

②そのうえで自己肯定感醸成プログラムを持ち、教育委員会や親を巻き込みながら高校生に直接的に働きかけている。

②そのうえで自己肯定感醸成プログラムを持ち、保護者に働きかけができている。

第3分科会

テーマ：食育

メンバー数：8名

平成29年　12月2日（土）
県大会分科会の様子

岩井の胡麻油株式会社工場見学
（平成30年　2月20日 火曜日）

第4分科会

テーマ：人権教育

メンバー数：10名

発表内容

- リストアップした課題
- 活動実績
  １．概要
  ２．県大会における発表内容
  ３．第1回勉強会
- 第4分科会活動の振り返り

第4分科会（人権教育担当）がリストアップした課題

- 子どもの貧困
- 奨学金問題
- LGBT
- インクルーシブ教育
- 保護者が外国出身の家庭の問題
- いじめ

第4分科会の活動

月　日	実施項目	内容
8月20日	第1回分科会	・自己紹介　・気になる項目のピックアップ　・今後の進め方の検討
9月18日	第2回分科会	・各自の調査内容の発表/意見交換
10月30日	フィールドワーク	・県教委インクルーシブ課訪問　・高校教育会館担　当者と意見交換
11月6日	第3回分科会	・上記フィールドワークの報告　　・県大会の分科会進行について
11月19日	第4回分科会	・県大会分科会の進行について
12月2日	県大会 分科会	・活動報告・LGBTについて・インクルーシブ教育について ・奨学金問題・いじめについて（RJによる解決）
1月21日	第5回分科会	・3月10日の勉強会の内容検討
2月2日	フィールドワーク	・インクルーシブ課との意見交換
2月17日	第6回分科会	・3月10日の第1回勉強会の進行/役割分担決定
3月10日	第1回勉強会	「インクルーシブ教育について」～保護者目線で基礎から考えよう～

1回約2時間～3時間
場所は大和駅周辺および横浜駅周辺

県大会の内容

LGBTについて

- LGBTとは、女性同性愛者（レズビアン、Lesbian）、男性同性愛者（ゲイ、Gay）、両性愛者（バイセクシュアル、Bisexual）、トランスジェンダー（Transgender）の各単語の頭文字を組み合わせた表現である
- 1/100人といわれていたが、2015年に電通が実施した調査では1/13人という結果であった

インクルーシブ教育について

【主旨】Inclusive（インクルーシブ）：包含的なの意味
障がいのあるなしにかかわらず、すべての子どもが、できるだけ地域の学校で、通常の学級で学び、地域で共に生きるためのしくみづくり。

【県立高校における現状】
・パイロット校：足柄（8名）・茅ヶ崎（8名）・厚木西（15名）
・知的障がいの生徒が対象（B2程度）
・1校につき7名の増員で対応

平成２９年度
健全育成分科会
第４分科会
活動経過報告

2017/12/2
神奈川県立高等学校ＰＴＡ連合会大会

奨学金制度の現状

（中間報告）

いじめ

- いじめは把握も解決も難しい
- いじめは学校の中だけ、子供の間だけの問題ではない
- 就職しても「パワハラ」はじめ様々のいじめは起こり得る
- 年齢が高くなればなるほど周りに相談しにくい

・・・これからの話は
ひとりの「親」として聞いてください

2018年3月10日　第1回勉強会

- 日　時　2018年3月10日　13:30～15:00
- 会　場　産業貿易センタービル　地下会議室
- 参加者　35名
- ゲスト　神奈川県教育委員会
  インクルーシブ教育推進課　丸谷指導主事
  足柄高校 笹谷校長
  神奈川県高等学校教職員組合

第4分科会の活動を振り返って

成果

- 日頃の活動から、イベントまですべて分科会の中で、企画・立案・実施した。
- 教育委員会をはじめ関連するところを巻き込んだ大会運営ができた。
- イベント参加者から、今後もこうした研修の機会を設けてほしい、分科会を継続してほしいという声が多数寄せられた。
- 分科会員自身も充実した活動ができた。単位ＰＴＡの活動は様々な事業の運営に終始することもあるが、移りゆく高校生を取り巻く課題について問題提起するという点でも意味があった。

反省と課題

- テーマの幅が広すぎる。
- 分科会の参加者を一般の会員まで広げたい。水平展開していくのが大切であり、今後の課題。
- 分科会の活動や活動を通じて得た情報を、広く会員全体に伝えることができていない。分科会そのものの運営と並行して実施していくべき課題である。
- 高校生について身近でかつ高P連として取り組むべきものもあった。例えば頭髪の黒染め等である。そうした問題の取り扱いも考えていく必要がある。

神奈川県立高等学校PTA連合会

健全育成第5分科会

『ネット社会における情報セキュリティ』

活動報告

第５分科会

テーマ：ネット社会における

情報セキュリティ

メンバー数：9名

【期初目標】

- 関連する情報収集して、関連情報を集め整理し、般会員向けの何がしかの成果物（レポート）を取りまとめることを検討する

- 12月2日の県大会に関しては、この領域に関解する専門家を招聘して講演会を行うことを検討する

- 通常はLINEを活用して、メンバー間の連絡意見交換情報交換を行う。

【活動報告】

- ネット社会におけるリスクに関連する情報収集に関しては、関連情報を委員間で情報共有し意見交換を行ったが、一般会員向けのレポートを取りまとめには至らなかった。

- 12月2日の県大会に於いて、神奈川県警少年相談・保護センター　落合警部補を招聘して講演会を実施しした。

- 講演会開催を策定する過程で、ネット社会の危険性に関して様々なアプローチで啓発活動を行っている団体があることが分かった。